昭和大学歯学部だより　2014．1号

通算122号
2014．1．31発行

発行責任者：歯学部長　宮崎　隆，編集責任者：広報委員長　井上　富雄
〒142-8555　東京都品川区旗の台1-5-8　TEL: 03-3784-8000
ホームページ：　http://www.showa-u.ac.jp

年頭にあたり：病院歯科から新しい教育成果を実践しましょう

歯学部長　宮崎　隆

新しい平成26年がスタートしました．3月にはいよいよ江東豊洲病院が開院します．地域住民のために子供と女性に優しい病院というスローガンを掲げていますが，大学としては医学部だけでなく全学部の学生の教育病院の位置づけにあり，医学部附属病院としては始めて病院開院と同時に歯科・歯科口腔外科を開設します．

本学では歯学部が開設された昭和52年以前は，旗の台の昭和大学病院に口腔外科をおいていましたが，歯科病院を開院後に閉鎖しました．10年以上経過してから医学部附属病院に歯科を開設する機運が高まり，平成4年に藤が丘病院に歯科を開設し職員や入院患者の歯科診療を行ってきました．その後，平成8年に烏山病院に，平成9年に大学病院に歯科を開設し幅広い医療支援を行ってきました．

平成23年には横浜市北部病院に歯科・口腔外科が開設され，附属病院における歯科の位置づけが大きく変わってきました．各附属病院歯科では積極的に地域連携と院内の診療連携をおこない，学生教育と医療支援の立場からも高く評価されるようになりました．この間に歯科麻酔医の医科麻酔研修が，藤が丘病院と横浜市北部病院で開始されています．また，昭和大学口腔ケアセンターの設置にともない，現在の豊洲病院を含む全ての附属病院で入院患者の口腔ケアを推進してきました．大学全体でチーム医療教育が進められ学部連携病棟実習においては，各病院の歯科がチーム医療教育を担当しています．全国の医系大学で，このように多くの附属病院に歯科を開設して，新しい教育と診療を実践している大学は本学以外には無いと言っても過言ではありません．

このような状況下で，本年は江東豊洲病院の歯科開設とともに，全ての病院歯科の体制をさらに強化して，本歯学部が掲げているチーム医療に従事できる専門歯科医療人育成のための教育の充実を図ります．そして病院歯科を拠点として，医科との連携のもとでの高度な歯科専門診療の遂行，周術期の管理を含めた医療への歯科からの支援ならびに地域医療機関との連携を一層推進いたします．

新しい年が，これまで10年以上すすめてきた教育改革の成果を実践する発展飛躍の年になりますように，関係者のご指導とご協力を宜しくお願い申し上げます．

城南信用金庫と産学金連携プログラムを調印しました

歯学部長　宮崎　隆

平成25年12月24日に，昭和大学は品川区・大田区などに地盤を置く城南信用金庫と「産学金連携プログラムに関する協定書」を締結しました．当日は城南信用金庫の吉原　毅理事長ほか多くの役員を本学にお迎えし，小口理事長が協定書に調印しました．医療・介護の現場では各種の医療機器や小器具，装置が使われていて，現場からは改善のために色々な要望があります．一方で本学が位置している東京城南地区には，ものづくりでは世界に冠たる中小企業がたくさんあります．本プログラムは，優れた技術力を持つ地域の中小企業と共同で,医師や看護師らのニーズにあった高度な医療機器の開発や改良を目指すものです．

大学と地域との連携の重要性がうたわれ，本学では附属病院と地域医療機関との連携を積極的に進めています．また，歯学部では教育においても学部外隣地実習として地域連携を進めてきました．一昨年からは地域歯科医師会と連携して IT を活用した教育資源の開発にも取り組んでいます．

大学の重要な使命である研究においても，歯学部ではこれまでも産学連携を推進してきました．今後はいわゆる研究の立場からだけでなく，医療現場の視点から幅広い知恵を出して，現場のニーズにあった医療機器の開発や改良を目指していきましょう．

３年生臨床シナリオ・学部連携PBLが実施されました

歯学教育学部門　片岡　竜太

昭和大学では「チーム医療ができる医療人の養成」をキーワードとして，４学部連携教育を推進しています．この教育の仕上げは，５年生が参加する「学部連携病棟実習」です．昭和大学附属病院の延べ120病棟で４～５人の４学部学生グループが入院患者さんを１週間担当させていただく実習です．本実習では学生グループが臨床実習を通じて収集した患者さんの医療情報を共有した上で，患者さんにとって望ましい治療ケアプランを病棟の医療スタッフに提案をします．「学部連携病棟実習」のシミュレーションとして，４年生では「病棟実習シミュレーション・学部連携PBL」を実施します．病棟で使用している医師カルテ，歯科医師カルテ，薬剤管理記録，看護記録などを基に作成した模擬カルテをシナリオとして，４学部学生が患者さんの問題点を共有し，治療・ケアプランをグループで作成します．

この度「臨床シナリオ・学部連携 PBL」を昨年12月６日(金)，13日(金)，17日(火)に旗の台キャンパスと横浜キャンパスで医歯薬３年生，保健医療学部２年生の計600名に対して実施しました．間質性肺炎やパーキンソン病の患者を主題とした PBL で，４学部の学生が専門分野の知識を基に，ディスカッションを行い，患者さんが有する問題を様々な視点で見て，患者さんや家族の問題の全体像をプロブレムマップという形にして，グループで共有しました．次にグループとして患者さんに対する治療・ケアについて考えました．未履修の内容も含まれるシナリオでしたが，学生は真剣に取り組み，グループの力を合わせて，患者さんの有する問題を共有し，治療・ケアプランを考え，発表会では，大半のグループが与えられた時間では足らない程内容が充実した発表を行いました．

学生は1年次に富士吉田で学部連携PBLを経験していますが，皆２年間の成長をお互いに驚き，専門的知識を身につけた仲間を尊敬しあう場面が多くみられました．さらに，各グループで学部（職種）の代表として，責任を持って発言することの重要性に気づき，医療人としての自覚が生まれたという声も多く聞かれました．

患者さんが有する問題を4学部学生のディスカションを通じて多面的に把握し，信頼できる情報源を用いて問題解決をはかる能力は，「クリティカルシンキング」と呼ばれ，欧米では歯学部生が必ず身につけるべき能力として重要視されています．是非 PBL を通じて，生涯学習，チーム医療ならびによりよい医療が提供できる歯科医師になってもらいたいと思います．

臨床シナリオ・学部連携PBLに参加しました

歯学部3年　James　Han

学部連携PBLとは医療総合大学という昭和大学の長所を活かして，普段交流があまりない医学・歯学・薬学・看護・理学療法・作業療法のメンバーで一緒にチームを組んで協力しながらシナリオに登場する患者さんや家族の問題を解決して行く能動型授業です．ガイダンスがあった初日は他学部の面識のない人たちの間で自分に託された役目を果たすことが出来るか不安でしたが，グループのメンバーで役割を分担しそれぞれの専門分野についての自己学習を通じてコミュニケーションを取り積極的なチーム医療が出来ました．また学部連携 PBL の議論では学部による多方面の意見を聞くことが出来たので自分では全然思いつかなかった所や意見を幅広い視点で学び，問題の解決策について考えられて楽しかったです．学部連携のチーム医療を体験し，自分の専門の領域だけからでは患者さんの完全な把握が難しかったのでチーム医療の必要性について知りました．僕は編入で昭和大学に2年から入学したので学部連携 PBL は今回が初めてでしたが学年が上がると実際の入院患者さんを対象とする病棟実習や選択実習などが存在します．今回の学部連携 PBL で得られた知識と養えたコミュニケーション能力をそれらの実習で活かしかつ伸ばしていきたいと思います．さらに卒業後もこのチーム医療の経験をいかしたいと思います．

奨学金制度について：昭和大学歯学部特別奨学金を新設しました

学生部長　上條　竜太郎

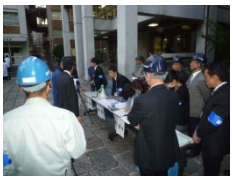
このたび本学に奨学制度として，昭和大学歯学部特別奨学金が新設されました．本奨学金は卒業後，大学院に進学し大学院修了後は，本学で教育・研究・臨床に従事し，本学の発展に貢献する人材を育成するための奨学金です．歯学部4年次の成績が上位10位までの者で，給付要件を充たす者に対して5年次，6年次の授業料相当額を給付する制度です．また，昭和大学被災地入学者のための高須奨学金の募集は本年度も継続して実施されます．

一方，独立行政法人日本学生支援機構は，大学生並びに大学院生を対象とした奨学金を貸与しています．奨学金は大きく分けて第一種（無利息）と第二種（年利3%を上限とする利息付き）に分かれますが，本年度歯学部は，第一種6名（1年次：2名，2年次以上：4名），第二種7名（1年次：5名，2年次以上：2名）が採用となりました．また，大学院歯学研究科では第一種19名（1年次：14名，2年次以上：5名），第二種1名（1年次：1名，2年次以上：0名）が採用となりました．

奨学生の採用は学力基準と家計基準に基づいて判断されます．また，家計急変等により緊急に奨学金の必要が生じた場合は随時申し込むことができます．詳細は学生課（高須奨学金は入学支援課）にお問い合わせください．

避難訓練が実施されました

防災委員　　中村　雅典



平成25年11月18日16時から旗の台校舎において「東京湾北部を震源とする震度6強の地震が発生した」との想定で避難訓練が実施されました．想定された条件は「激しい余震により建物が倒壊する危険があるため，建物内の学生・職員は屋外へ避難する．」というものでした．避難場所は中庭と上條講堂前に設置されました．16時に「地震発生」の全館放送があり各自初期対応，次いでガス栓・電源の遮断等の火元確認が行われました．その後，放送による避難の指示があり，各指定避難場所への移動を開始し，避難場所に設置された受付にて各部署の避難人数の届け出が行われ避難訓練は終了しました．本訓練には学生・職員合わせて約1，500名が参加いたしました．

台北医科大学から歯学部学生が選択実習に来ました

美容歯科学部門　山口　麻衣

1月20日より5日間，台北医科大学歯学部5年生の学生5名（男子3名，女子2名）を歯科病院にて受け入れました．旗の台国際交流センターと同じ建物内の寮へ宿泊し，台北より5℃以上も寒い東京で毎日元気に登院し，教員，学生と交流を深めました．初日はオリエンテーションと美容歯科の見学でした．補綴治療中に当該歯以外で健全な生活歯をホワイトニングする時期など臨床に直結した質問があがりました．2日目は歯内治療科と歯周病科，3日目には連携歯科と口腔リハビリテーション科を見学しました．特に口腔リハビリテーション科は台北医科大学にはなく，熱心に学習している様子でした．4日目は補綴歯科馬場教授の講義を聴講し，さらにインプラント歯科の見学を行いデジタルデンティストリーの見聞も広がったようです．最終日は，矯正歯科にて槇病院長の教授診断の見学と患者型ロボット昭和花子を用いた齲蝕除去の実習に取り組みました．初日と3日目には夕食を共に致しましたが，常に大変礼儀正しく気持ちのよい学生さんたちでした．5名全員が英語でのコミュニケーションがとれ台湾の初等教育のレベルの高さを感じる一週間となりました．忙しい外来の合間を縫って，多くの先生方に御協力頂き無事に終了致しました．関係者各位に厚く御礼申し上げます．

第2学年のカリキュラムが変更されます

教育委員長　井上　美津子

平成26年度より第2学年のカリキュラムが変更されます．従来，富士吉田教育部の第1学年の授業が早めに終了するため，一昨年からは第2学年のオリエンテーションを前倒しして3月中に実施していました．さらに平成25年度は12月中に富士吉田での第1学年の授業が終了となるため，平成26年度の第2学年の授業を3月の初めから開始することになりました．現2年生との調整もあることから，最初の2週間はオリエンテーションを行い，第3週目から通常の授業に入ります．オリエンテーションでは，基礎・臨床科目の入門講義や指導担任を交えたWSなども計画しており，新2年生が旗の台校舎や歯学部独自の授業に早く慣れてもらえるようなスケジュールを考えています．

戦略的大学連携のシンポジウムに参加しました

口腔衛生学部門　弘中　祥司

1月12日（日）に連携8大学によるシンポジウムが福岡歯科大学で開催され，宮﨑歯学部長とともに参加しました．連携8大学とは，本学と福岡歯科大・福岡大・九州歯科大・神奈川歯科大・鶴見大・岩手医科大・北海道医療大の8校で，TV 会議システムを用いて月に2回の会議を行い，口腔医学教育カリキュラムを作っております（担当：弘中）．

シンポジウムは「これからの医療における口腔ケアの役割」というテーマで行われました．福岡歯科大では，自前の老健施設を利用して，1年生は1日の見学実習，3年生は1泊2日の体験実習（24時間），5年生は1週間の参加型臨床実習と，内容の濃い実習を行っています．また，鶴見大学では高齢者歯科が学外施設で，急性期病院から在宅まで，シームレスに食べる機能を支える口腔ケアを行っており，とても参考になりました．本学では8付属病院を用いた学部連携教育と口腔ケアセンターを用いた周術期教育が特徴的で他大学には無い特色ですが，これからの超高齢社会を考えますと，ますますの福祉・在宅への教育の強化が重要と思われました．今後，より一層の議論を重ねて，地域に積極的に貢献できる歯科医師を育てたいと切に思いました．

行事予定

広報委員長　井上　富雄

2月1日（土）2日（日）：第107回歯科医師国家試験
2月15日（土）：大学院歯学研究科春季入試（Ⅱ期）
2月16日（日）：D4　OSCE
2月22日（土）：歯学部Ⅱ期入試・
　　センター試験利用入試（Ⅱ期）
2月26日（水）：D4　CBT 追・再試
3月6日（木）：D4　OSCE 追・再試
3月3日（月）～3月 14日（金）：D2オリエンテーション
3月14日（金）：大学院歯学研究科修了式
3月17日（月）：卒業式
3月18日（火）：D2授業開始
　　：第107回歯科医師国家試験合格発表
3月31日（月）：D5白衣授与式

CBT ワークショップが行われました

CBT 委員長　北川　昇

1月25日（土），今年度2回目になる CBT ワークショップが開催されました．今回のワークショップは，昨年10月に発表された本学の CBT 問題の採択率アップを受け，ビギナーの先生方を中心に，CBT の意義と良問作成のノウハウを身につけていただく事を目的として，全講座からの出席をいただき開催されました．

当日は井上美津子教育委員長の挨拶の後，特別講師として佐藤裕二教授が，「CBT 問題作成時の注意点　−特に視覚素材について−」と題する講演をされました．そして，各自が持参したPCを使用して実際に画像の修正を行い，重要なポイントとコツを学習しました．その後，機構から提供されている問題作成ソフトを使い，練習問題のブラッシュアップを行いました．

次年度も採択率のより一層の向上には，諸先生方のご協力が不可欠です．参加された先生方にこの場をお借りして御礼申し上げるとともに，今後も宜しくお願いいたします．

認定医・専門医取得

広報委員長　井上　富雄

●日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士
渡邊　賢礼　：口腔衛生学部門
石田　圭吾　：口腔衛生学部門
湯浅　研　　：口腔リハビリテーション医学部門
●日本老年歯科医学会専門指導医
弘中　祥司　：口腔衛生学部門
石川　健太郎：口腔衛生学部門

昇任

広報委員長　井上　富雄

岩佐　文則　：歯科補綴学講座・准教授昇任
中島　功　　：口腔解剖学講座・准教授昇任
野中　直子　：口腔解剖学講座・准教授昇任

編集後記

口腔解剖学講座　野中　直子

平成26年も早いもので 1 か月が過ぎました．これからのシーズンは，入学試験をはじめ試験の多い時期になります．試験監督などの業務もありますので，皆様体調を崩さないように注意しましょう．最後になりましたが，お忙しい時期にもかかわらず，原稿を執筆してくださいました先生方に深く感謝いたします．